

研究課題: 空手道選手における間合いの研究－性格特性、体力面、戦法からの検討－
研究代表者: 福場 久美子

本研究は、先の先の間合いに着目をして、性格特性、体力面、戦法から間合いの決定要因について明らかにすることを目的とした。また、選手が求める指導者の指導方法が合うことで、練習意欲が刺激され、さらなる競技力向上が期待できることから、性格特性に合った指導方法も検討する。空手道において間合いとは、向かい合った相手と自分との距離である。戦法には大きくわけて「先の先」「後の先」がある。「先の先」とは、相手が油断した瞬間をとらえて攻撃を仕掛けることであり、「後の先」とは相手の攻撃をかわして直ぐ攻撃を仕掛けることである。実験参加者はN大学空手選手、男性32名(19.7±1.1歳、競技年数は12.8±3.0年)を対象とした。パーソナリティ検査においては、一般体育大学生(以下:一般学生)17名(19.1±0.9歳)も対象とした。測定項目は①Y-G性格検査(パーソナリティ検査)②TAIS.2(特性不安)③新体力テスト④内省報告⑤間合い測定(実験参加者の前方の足の親指から、相手役の前方の足の親指までの距離)であった。結果、性格特性においては間合いと回帰性傾向($r=-0.435$, $p<0.05$)、客観性($r=-0.377$, $p<0.05$)、情緒不安定因子($r=-0.357$, $p<0.05$)、TAIS.2得点($r=-0.351$, $p<0.05$)との間に負の相関がみられた。また、相手に対して圧迫感を感じた度合いと間合いに負の相関がみられた($r=-0.418$, $p<0.05$)。戦法の違いによる間合いにおいて、先の先の間合いは、後の先の間合いより有意に広い($p<0.001$)ことが明らかとなった。以上のことから、相手と対峙した際の間合いの決定要因として、性格特性と戦法の違いによるものが考えられる。この結果から競技力向上のためには、体力を鍛えるだけでなく、心理的側面の強化が必要であると考えられる。また、性格特性からみた、空手選手及び、一般学生に対する指導方法は、指導者と運動者が一体となり、運動者が前面に立って、指導者が後押しする指導方法が良いのではないかと示唆された。